

加藤道夫 作

# 地獄の地図

(未完)

— 或る架空の悲劇 —

二〇一七年

十月十七日(火) 十五時・十九時

於 ギャラリーX<sup>カイ</sup>

チケット 千円



加藤道夫

『地獄の地図』と云ふ戯曲を書くこと。幾つかの場面が夫々断片として独立して居り、その断片の集積の中から、人はひとつの『地獄の地図』をみるであらう。

(加藤道夫覚書より)

昭和十九年、(一九四四)二十六歳、春、『なよたけ』(五幕)脱稿。川口一郎を知る。南方へ赴任。濠州作戦なりしか(？)、マニラ、ハルマヘラ島を経て、西部ニューギニアのソロンなる部落へたどり着く。以後終戦まで、全く無為にして記すべきことなし。人間喪失、マラリアと栄養失調にて死に瀕す。(加藤道夫自筆年譜より)

そこで彼は、地獄を、見た筈である…。

加藤はもう少し生をつないで生きのび、…戦争と死の地獄の劇を書くべきであった。眼覚めたときの夢想家の、現実に対する復讐を私たちは期待してもよかつた筈なのだ。が、彼は取り殺されてしまった。仕方がない。(堀田善衛『今年の秋』より)

読み人



山本健翔

新「新演劇研究会」 主宰

劇舎カナリア 詩の劇場・問う劇場  
劇詩人加藤道夫企画 演出家・俳優

「あの南海の果の僻地に、あえなくも凡俗な生の伝記を終えて逝った若き生命たちよ！ 君達は此の時代の恐るべき人間愚の犠牲者だったのだ」——と作者は記す。

その「愚」が気が遠くなる程に肥大する現在、その気確かにもつために。

(山本健翔)